

バドミントン漬けの毎日が 実を結ぶ

「初めての全国大会ということもあって、自分の力を全て出し切れなかったことが悔しいです。全国大会に出場する選手はやはりレベルが高かったです」と全国高等学校選抜バドミントン大会を振り返る工藤さん。

小学1年生のときからバドミントンを始め、現在は、高校の部活に加え、毎週月・木曜日には幌別東小学校の体育館で練習を重ね、平成29年8月の全日本ジュニアバドミントン選手権大会出場選手選考会（南北海道ブロック）においてベスト4、北海道バドミントン選手権大会では3位という好成績を収めました。全道大会で頭角を現した工藤さんは、同年10月には、道内トップクラスの選手が参加す



▲軽快なステップとラケットさばきをみせるバドミントン部員

る北海道・アルバータ州親善スポーツ交流事業の選手団の一員として、カナダで地元の有力選手との対戦を経験。

また、平成30年1月には、全日本ジュニアバドミントン研修合宿に参加し、全国の強豪選手と共に練習に励み、バドミントンの総合的な技術はもちろん、自身の持ち味であるスピードと長身を生かしたプレーに磨きをかけ、全国高等学校選抜バドミントン大会南北海道大会の男子シングルスで1位の座をつかみ、全国大会ではベスト16という結果につながりました。

さらなる高みを目指して

技術トレーニングだけではなく、体幹トレーニングなどの体づくりにも励む工藤さんは、動き出しのスピードが全国トップクラスと北海道大谷室蘭高等学校男子バドミントン部の本岡泰斗顧問に太鼓判を押されるほどに成長しました。

しかし、「まだ、守備力に課題がある」と語る工藤さんは、平成30年6月に開催される北海道高等学校バドミントン選手権大会兼全国高等学校選手権大会北海道予選会でのさらなる活躍を目指して、今日もラケットを握ります。

き ら り

KIRARI

く どう そう た
工藤 蒼大さん(富岸町)

平成30年3月24日(土)から28日(水)にかけて愛媛県松山市で開催された全国高等学校選抜バドミントン大会。南北海道大会の男子シングルスで見事1位となり南北海道代表として出場した北海道大谷室蘭高等学校の工藤蒼大さんは、同大会でベスト16という好成績を残しました。高校3年生となり、さらなる技術の向上に励む工藤さんにバドミントンに対する思いを聞きました。

登別の地で 蒼天高く羽ばたく



平成12年、登別市生まれ。17歳。

小学1年生のときに、姉が加入していた登別バドミントンスポーツ少年団に入団し、バドミントンを始める。180.8センチの長身をいかしたプレーが持ち味。北海道大谷室蘭高等学校男子バドミントン部主将。趣味は映画鑑賞。